MORLIN
www.morlin.sakura.ne.jp
www.morimatsu.net
森松株式会社社内

# 波紋 Ripple

No. 334号

3月3日、近藤産興さんが主催の愛知戦国甲冑隊・熱田神宮奉告祭へ森松から5名参加しました。愛知県下の甲冑愛好家と企業による13の武将隊、150名が熱田の森を行進し、甲冑隊の1周年を祝うことが出来ました。森松武将隊は社内で製作したEVA素材の甲冑を着用。周りからの評判も良く、軽くて水にも強いこの甲冑が新商品になる日も近いと感じた一日でした。　　　　　　　　　　　　　　　　　森　直樹

## 『震災より2年』

社長　森　直樹

早いもので一年も4分の1を経過しました。そしてつい先日、東日本大震災より2年が経ちました。当時の映像がテレビやネットで再び流れ、改めて災害や事故という緊急時に対する想定や心構えが必要だと感じました。残念ながら天災や事故はいつ、どこで発生するかわからないものです。自分自身の安全、そして家族や仲間の安全を守るために自宅、職場、移動中といくつかの場面でどう動くのか、改めて考えておりました。以前3日間滞在した宮城県石巻市ボランティアのHPを見ると、「石巻はかなり片付いてきた・・・」というコメントがあり、若干ホッとすると同時に、元に戻していくのはやっとこれから、という意味にも取れました。ひとたび被災した場所の復興と安全対策には被災者の方たちの納得するように行わなければなりません。これからもどんな形にせよ支援出来ることは行っていきたいと思います。

現在、本社2階は旧来の設備を処分し、新たに生産設備を入れるところです。それに伴う全体的なレイアウトの変更もあり、今後より有効的にスペースが利用できるようになります。今後設備を長く活かす事ができるかどうかは、私達自身がどれだけ結果を出すことできるかで決まります。新しい商品、新しい顧客を掴むベースとなるよう活用していきましょう！

# ＜ ゆとり教育 ＞

牧野　光昌（企画営業部）

1980年代から始まった「ゆとり教育」は30年の時を経て終焉を迎えている。具体的な良し悪しはわかりませんが、終焉を迎えた要因には国際学力調査の結果が下落していったからであるという意見も多かった気がします。何事にも「評価」される事が付き物ですが、評価には相対評価と絶対評価があります。ゆとり教育以前はクラスの中で競争させるような相対評価が中心で、全国平均をベースにした絶対評価の部分も少しありました。ゆとり教育の時代になって、それは逆転して絶対評価中心になり、一定レベルまで到達すれば良しとする考え方へと教育方針が転換させられました。国際学力調査も大学入試も完全な相対評価です。だから「ゆとり教育」が開始されて瞬く間に急増したのは「学習塾」でした。学校の教育内容にまず不満を感じたのは児童の親たちでした。親が学校教育に不信感を抱き、学習塾へ通わせる事で満足し、児童たちは自由な時間を失い、その結果 教師を尊敬する気持ちは薄れ、尊敬されなくなった教師は「教育」という仕事を「天職」と考えなくなっていったのかもしれない・・・。そして「ゆとり教育」が終焉し始めた頃、勝ち組となった学習塾はさらに学校法人の経営にまで参入し始めた。名古屋でも昨春から開講した小学校では、授業は学習塾で構築した指導方法で通常の公立小学校のカリキュラムの1.5倍のスピードで進められるそうであるが、さらに設備がすごい。「能舞台」「茶室」で伝統文化の授業、大型ランチルームでは、減農薬・無添加食材にこだわった自校給食、自動開閉式の窓からの自然換気設備、災害時に備えた備蓄庫、ハイテクな録音設備を持つ音楽室、作業スペースの広い図工室、1人1人実験を可能にした理科実験室、周囲の環境は自生林を保存し、散策小道のある雑木林やどんぐり広場を整備、広場にはアスレチックや小川や池があり、広いグランドの片隅には馬場があり、乗馬体験を通して豊かな情操や品格のある人間性を育みます。なんて、この小学校の宣伝をしている訳ではありませんが、ここへ行ったら学習塾へ行かなくてもいい、と考えると子供ももちろん親も行かせたくなるよねぇ。でも年間授業料は100万円ですから、「残念」・・・ちょっと古い。「ゆとり教育」が始まり、そして終焉した今でも、子供には「ゆとりの時間」が無くなり、親たちには「家計のゆとり」が無くなってしまったのである。

# ＜ 大人のおもちゃ ＞

加藤　雅昭（営業部）

またまた本の付録でDAC+ヘッドフォンアンプを買った。これが面白い！　DACチップは前回買ったデジタルアンプと同じPCM2704CDレベルのDAC（デジタル-アナログ変換回路）です。しかもオペアンプの交換が可能なのです。自分としてはノーマルのままのNJM4558Dでもいい音と思い聞いていましたが、いいオペアンプに交換するともっといい音になるらしい。ということで2個買ってみた。小さな虫みたいな部品でほんとに音が変わるの？と半信半疑で交換してみる。これが面白い。確かに音が変わる。へ～音が変わる！いろんな音楽を聴いてみる。すると聞くジャンルによって聞くチップの違いがはっきりしてくるOPA2604はとにかく元気、聞き方によってはちょっとドンジャラが強いかな？でもとってもはっきりした音です。ポップス、ジャズ系には非常にいい感じ。そしてもう一個のLME49720、こちらは逆に非常に落ち着いた音、カノンのバイオリンがとっても綺麗に聞こえます。刺激の少ない聞き疲れのしない音です。クラシックを聞くにはこっちのほうがいいようです。今回買ったオペアンプは1個400円くらい、なかには4万円というものもあるけどこれで十分かな。夜なオペアンプ付け替えて、アンプを変え、スピーカーを変えて聞いているとあっという間に時間がたってしまいます。スピーカーとアンプをつなぎかえるのが面倒なのでスピーカーセレクターも買ってしまった。配線をOFC（無酸素銅）で組んでもらってまたスピーカーもセッティングの関係でスピーカースタンドをオーダーメイドで購入・・・これがまたすごい、柱に砂をつめてもらい1個15㎏くらいに仕上がっているがスタンドなしの場合と比べると中低音がぎゅっと濃くなった感じでしまって太く聞こえる。あれ、たった2800円の本の付録の為にいろいろと買ってしまった・・・本当に音は不思議です。ちょっとしたことでどんどん変わっていく。子供もなかなか遊んでくれなくなった大人？にはちょうどいいおもちゃでは？一度皆さんも遊んでみませんか？

## 「街×休×若×老」

大石　耕平（東京オフィス）

最近、街中の道端に座ってる人が多いなぁと、外周りの最中よく感じます。ホームレスではなく、ごく普通の人が椅子でもベンチでもないところに座っているのです。特に多いのは渋谷のように若者の多い街。屋外にベンチがあるわけではなく、歩道脇の花壇のブロックや、お店の前の階段、ビルとビルの細い隙間にしゃがんでいる人もいます。その周辺のお店で働いている人や、街に遊びにきた人、スーツ姿のビジネスパーソンなど、人の種類もいろいろです。スマホとタバコで休憩中という人が多いですが、ハンバーガーやサンドイッチを食べている人、パソコンを開いて作業している人もいます。メモをとりながら、明らかに商用と思える電話をしている人も。彼らがなぜ道端の、本来は座る場所でもないところに座っているのかというと・・・①屋内でタバコが吸えないため、道端に座って一服休憩②カフェに入るのは面倒だし、お金もかかるため道端に座って休憩③歩行中に電話がかかってきたり、メールが来たので、対応している。立ったままだと疲れるので、座って休憩④コンビニやテイクアウト専用のファストフード店で食べ物を買ったが、食べる場所がないので、その辺に座って食べている。といったところでしょうか。また高齢者の多い街でもみんな座っているのをよく見かけます。こちらはデパート内の椅子や公園のベンチが多いですが、やはり花壇のブロックに座ってる人もいらっしゃいます。高齢者の方は体力的に長く歩くのが大変で、定期的に座りたくなるのでしょう。かといってイチイチ喫茶店に入るわけにもいかないですし。こういう風景を見ていると、「もっと街中に無料で座れる場所があればいいのに。」と思うのですが、都心だとそういう場所を提供するのもコストに直結するし、民間企業が公道の上に勝手にベンチを置くことはできません。また「ベンチがあちこちにある場所」として有名になると、そこで寝る人、生活する人が（こちらはホームレス）現われます。街の関係者はどこでも、そういう人を集めたくないので、「座れる場所のある街」を作りたくありません。渋谷などでは、「座り込む若者」も風物詩かなと思うと同時に、もっとあちこちに自由に座れる場所があればいいのにと思います。今のところ街で無料で座れる場所としては、下記のようなタイプの場所があります。①銀座や秋葉原などが休日に行う歩行者天国では、車を封鎖した車道の中央に、パラソルとベンチ、テーブルがでます。食事をしている人も多いですね。ただ、あれだと休日だけだし、「いかにも」という感じです。②丸ノ内の一部の通りは、ＮＹを真似してビルの一階にフリーの座れるスペースを設けています。他の繁華街や目抜き通りでも、こういうのが増えるといいと思います。③コンビニにイートインのカウンターと椅子を設置するところが増えています。これは韓国ドラマではずっと前から登場していて、「これ便利。日本でも始めればいいのに。」と思っていたら、最近でてきました。なお韓国ドラマでは店の前に椅子とテーブルを出しているコンビニもよくでてきます。④商用施設の一階ロビーなどに、みんなが座りやすい場所が設計してある。これはとてもありがたいです。ミニイベントが行われることも多く、集客にも一役買っていると思います。上記のような場所もどんどん増えて欲しいし、それに加え歩道のあちこちにベンチがあり、休んでるお年寄り、ハンバーガー食べてる親子連れ、一休みしてるリクルートスーツの学生や、電話がかかってきた時にちょっと座って話してる会社員がいる、みたいな、「座れる場所のある街」って、けっこういい感じだと思います。本音は私も街中で休めるところが欲しかったり・・・。

## 卒園

鹿内　仁美（製造部）

今年末っ子の娘が５年間通った保育園を卒園します。始めは保育園に送っていくと泣いて私の手から離れようとしなかった娘が、今では保育園に通う分団で年中さんや年少さんの先頭に立ち旗持ちをするようになりました。また、お遊戯会では恥ずかしがり、手で顔を覆っていたのに今は堂々と踊れるようになりました。大変な時期もありましたが、今ではお手伝いもよくしてくれるしっかりした女の子に成長してくれました。子育てというものは親が子供を育てるのではなく、時に子供から教わる事も多く、ともに成長していくものだと感じました。子育てと仕事を両立していく中で会社にも迷惑をかけてしまう時もありました。しかし森松の方々はそんな私の事を理解して温かい対応をしてくれました。子供がいて働く身にとってはとても精神的に楽になりとても感謝しています。これからも大変な事が沢山あるとは思いますが、子育ても人生も楽しんでいきたいと思います。また仕事にもより一層励んでいきたいと思っています。

# 4月の予定

6日（土）　第1土曜日休み

12日（金）　土田義紀さん誕生日

14日（日）　伊東郁二さん誕生日

17日（水）　三輪りつ子さん誕生日

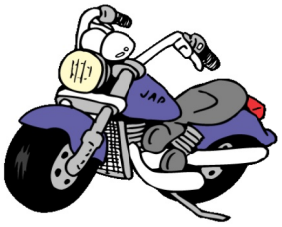
26日（金）　CS向上会議　14時10分～15時
　　経営会議　15時10分～16時00分

27日（土）　第4土曜日休み

29日（月）　昭和の日

森松株式会社　社内報
No: 334 号
平成 25 年 3 月 26 日発行
森松 HP
http://www.morimatsu.net/
オーダーマットのご注文はモーリンモールで！
http://morlinmall.jp/index.html
編集者
大石 耕平　松井 宣和
伊東 義弥　小坂 美香
小原 龍一　伊藤 雅典
創刊号：1985 年 7 月
MORLIN

## ジャパニーズ・グラフティ

成瀬　勝英（製造部）

今から38年前。私が高校を卒業し就職した時代のこの国は高度経済成長期の渦中にあり、就職先を探すどころか決める事を迷う時代でした。今では考えられないでしょうが、大企業の大半が就職先に名を連ね、雑誌のように分厚い社員募集の会社広告を何十部も大きな紙袋入れて持ち帰った覚えが有ります。実際同級生の多くが、トヨタ・ホンダ・三菱・日本車両・日本製鉄といった会社に就職していきました。（その後の事は知りませんが）専攻が機械科課程だった事もあり当時は日本の製造業を担う人財として、随分大切にされた環境だったと思います。同級生の中にはオートバイ（750cc）を所有している者も多く、在学中に18歳を迎える者は早々に免許を取得、親に買って貰った新車で通学する人もいましたね。勿論学校は禁止していました。同級生の会話の大半は車やバイクの話題ばかりで、高速道路で180キロ出しただの、どこどこのカーブを100キロで曲がったとか、幼稚な話題を真剣に議論していました。悩みと言えば彼女が欲しいだの、車のハンドル小さくしたら全然曲がらんとか、ともかく馬鹿が馬鹿やって何が悪いと居直れた時代でした。先日、知多高速のインターチェンジで休憩中にバイク集団に遭遇しました。当時のホンダ・カワサキのナナハンが合わせて200台以上。「今の若者にも人気があるんだ～。」と思いきやヘルメットを取ると中年も過ぎたおっさんばかり、俺と歳が変わらん。まさか、あの時代から続けている訳では無いだろうが・・・。家庭も一段落して夢を再びかな？それにしても当時のバイクファッションはやめてほしいと思いました。